

～多文化共生の巻～

# 「Cultures United in MIYAGI

～多文化共生と国際化社会を考える～

に参加して

(財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐 細越 俊矢 (宮城県派遣)

## はじめに

宮城県は、2012年2月17日に仙台市「せんだいメディアテーク」で、外国人県民が東日本大震災で体験したことや地域で活躍している姿を発表する場等を設け、その経験と教訓を多くの県民と共有することで、県民の「多文化共生社会」に対する理解や新たな国際交流の促進を図ることを目的とした標記イベントを、(財)自治体国際化協会の助成事業「地域国際化施策支援特別対策事業」を活用して開催しました。

## イベント概要

イベントでは、宮城県の外国語指導助手 (ALT) と県民との交流の場の提供をはじめ、県内在住外国人による震災体験談の発表、震災支援活動に関わる著名人によるトークセッション等が行われ、県民レベルでの国際交流や外国人住民支援への理解の促進が図られました。

約200人の県民が来場され、県民の方々のこのテーマへの関心の高さがうかがえました。

## 外国語指導助手 (ALT) との交流 & パネル展示

会場の一角に、宮城県で活動するALTと県民がゲーム等を通して交流する場を設けるとともに、宮城県における多文化共生施策、県・仙台市の国際交流協会の活動、世界各国からのALT等を日本各地へ送り出している世界最大規模の国際交流プログラム「JETプログラム」、各国駐日大使からの震災支援メッセージ等の紹介パネルが展示されました。交流スペースでは、多くの来客者がALTとの交流を楽しんでいる様子で、あらためて草の根レベルの国際交流の大切さを感じました。



ALTと県民の交流の様子

### Cultures United in MIYAGI ～多文化共生と国際化社会を考える～

- 日時 2012年2月17日 15:00～19:50  
 会場 せんだいメディアテーク (仙台市)  
 内容 ◆外国語指導助手 (ALT) との交流 & パネル展示 (15:00～)  
 ◆県内在住外国人の震災体験談の発表 (17:30～)  
 ・コーディネーター：大村 昌枝氏 (財)宮城県国際交流協会参事兼企画事業課長)  
 ・エピソード1：アンドリュー・フリサ氏 (気仙沼市ALT)  
 ・エピソード2：佐藤 金枝氏 (南三陸町国際交流協会理事)  
 ・エピソード3：J.Fモリス氏 (宮城学院女子大学教授)  
 ◆著名人による対談 (18:30～)  
 ・ダニエル・カール氏 (マルチタレント、元山形県ALT)  
 ・渡辺 真理氏 (フリーアナウンサー、元TBSアナウンサー)  
 ◆著名人からの復興へ向けたビデオメッセージ (19:35～)  
 ・MONKEY MAJIK (モンキーマジック) (仙台を拠点に活動するバンド、元青森県ALT)

## 県内在住外国人の震災体験談の発表

アメリカ出身で気仙沼市ALTのアンドリュー・フリサ氏は、2011年3月11日、気仙沼市内の中学校で卒業式の練習後に被災されました。震災直後、原発事故の影響から帰国する外国人が多かった中、アンドリュー氏は現地に残り、一住民として避難所の運営に尽力されました。震災当時のエピソードとして、深刻なガソリン不足の中、ガソリンスタンドに行っても「外国人」とよそ者扱いされガソリンを売ってくれなかったこと、悲惨な状況の中でも復興に向け懸命にがんばる日本人の姿に感動したことなどを話されました。



震災体験談発表の様子

台湾出身で南三陸町国際交流協会理事の佐藤金枝氏は、津波により自宅、会社が流され、約2か月間避難所生活を強いられました。震災直

後は避難所生活の傍ら、日本人の夫を亡くした外国人未亡人のサポートを行いました。震災時には日本語が分からず情報を得ることができなかつたため被災した外国人が多くいたことを挙げ、日本語教室の整備・拡充が必要であると力強く話されました。

オーストラリア出身で宮城学院女子大学教授のJ.Fモリス氏は、震災後、多くのメディアが被災地に残りがんばる外国人のニュースを取り上げていたことを挙げ、被災地の中では日本人と外国人の区別などなく、被災地の外からきたメディアが「外国人」を特別扱いしていたように感じたと話されました。また、地域社会の中で、在住外国人は地域に根差した生活を送る一住民であり、一概に外国人＝要支援者というくくりではないことや、要支援者にならないため、自分の命を守るために、自ら日本語を理解する努力が必要であると主張されました。

## 著名人による対談・ビデオメッセージ

山形弁を流暢に操るマルチタレントとして活

躍されているダニエル・カール氏と、フリーアナウンサーとしてさまざまなジャンルで活躍されている渡辺真理氏によるトークセッションが



著名人対談の様子

行われました。お二人は、震災直後からそれぞれの立場で支援活動に携わり、震災当時の体験談や今後の被災地支援について話されました。

ダニエル氏は、震災直後からツイッターを活用し、主に停電に関する情報を英語に翻訳して提供されました。政府が出す情報の内容が頻繁に変わり、情報提供する上でとても混乱したと話されました。また、海外メディアの報道内容には誤った情報が多くあり、誤った情報を入手した外国人が混乱していたと指摘されました。また、山形県でALTとして活動された経験から、JETプログラムのおかげで日本の国際化が大きく進んだと話し、海外の皆が日本を応援してくれているから明るくポジティブに乗り越えよう、と力強く話されました。

渡辺氏は今後の被災地支援について、復興までの道のりは長いですが、多方面から支援を継続することが重要であり、その一助となれるよう努力したいと話されました。

最後に、仙台を拠点に活動するバンドグループ「MONKEY MAJIK」からのビデオメッセージが上映され、被災地に向けた温かいメッセージと明るく穏やかな音楽により、会場が温かい雰囲気になります。閉会となりました。

## おわりに

今回のイベントでは、ALTとの交流の場をはじめ、被災した外国人県民の生の声を発信することにより、多くの県民が国際交流の大切さや在住外国人支援の重要性を認識する機会になったと感じました。また、被災地に対して日本全国、世界各国から多くの支援があったことを再確認し、宮城県民としてあらためて感謝を申し上げます。